

<中谷真樹先生の第3回講演会>

1月30日(土)に開かれる。テーマは「薬と肥満について」。就労移行支援の方もいらっしやって、当事者の就労についてのお話もありました。3月号に短文を載せる予定です。

<平成28年度県家連主催県大会講師の紹介>

平成28年11月8日(火)に行われる県大会の講師・大野美子氏についてシリーズでご紹介していきます。

氏は、みんなねっと英国メリデン版訪問家族支援プロジェクトで、メリデン・ファミリープログラムを修められた。わが国では、本人はケアを必要とする人・家族はケアをする人として、家族が良いケアをできるようにすることが家族支援だとする。つまり、家族が本人に対して良いケアができていれば支援は不要だと考えられている。それに対して、ファミリーワークを通じて、積極的に家族も支援の対象としてこうとする考え方を推し進めている(つづく)。

<障害福祉サービスを利用してみて>

～あけぼの会の当事者の事例より～

ヘルパーさんを頼んで掃除を手伝ってもらっています。元々整理整頓が苦手で、それなのに人に自分のものを触られるのが嫌いと来ていて、私がない間に母が片付けものをしてしまうことでケンカが絶えなかったことが、お願いするきっかけでした。

市役所へ自分から行く——母の行動と自分の部屋の散らかりようを見て、自分から市役所へ行って手続きを取ってきました。一人で行きました。しばらくして、市の職員の方が訪問されて、現場を見ていかれたのと、いくつかの質問をされました。そして、3カ月ばかりで受給者証が届き、許可が頂けました。2年以上前の話です。一度入院があつて訪問は途絶えましたが、昨年再開していただきました。介護の再開までには時間はかかりませんでした。ただ、自立支援法の改正で、今回からはサービス管理責任者の方が付くことになったのですが、それは3カ月ばかりかかりました。

掃除を中心として——ヘルパーさんに来てもらってやってもらっていることは、主に部屋の掃除機がけと、散逸している紙(書類)の仕分け・ファイリング・破棄、それから、話し相手にもなってくださいます。ほかっておくと掃除らしいことは何もしないので、訪問のある日にあわせて自分でも片付けものを始めようという気になったところが進歩だと思っています。

自分の部屋に他人が入ることについて——元来それに対しては敷居は低い方ですが、それでも入って欲しくない時はあります。そんな時は、話だけで終わってしまうこともあります。それでも良いと思っていますし、良いようです。

訪問看護との違い——訪問看護もお願いし始めましたが、大きな違いは、訪問看護では、体温測定・血圧測定等、医療行為を行ってもらえるところですか。これについては、また紙面を改めてレポートいたします。